

令和7年度 学校研究 授業実践報告集

いしずえ

第38号

自ら気づき、考えて行動する生徒を
育成する授業づくりⅡ

～ 深い学びにつながる総合的な探究の時間の授業づくり

(1年次)～



山形県立鶴岡高等養護学校

生徒の「生きる力」を育成する授業づくりの探究

校長 園部直人

はじめに、現代は予測困難な時代、多様性の時代といわれています。AI技術の急速な発展や社会情勢の急激な変化など、短期間で社会情勢が目まぐるしく変化する正解のない時代です。このような時代を主体的に生き、社会を担っていく幼児児童生徒の「生きる力」を育成するために、学習指導要領で示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成が学校教育に求められています。

本県においては、令和7年度から「第7次山形県教育振興計画」が策定され、「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」を本県教育の目標に掲げ、学校・家庭・地域が一体となった教育の展開が始まりました。

このような状況を踏まえ、卒業後の一般就労を目指す生徒が学ぶ本校では、学校教育目標「主体的に学び、関わる力を伸ばしながら、社会自立をめざす人を育てる」の実現に向け、昨年度から「生徒を主語にした学校づくり」を経営方針の柱に据えて、学習指導、生徒指導、進路指導、寄宿舎生活指導等の教育活動の充実に取り組んでいるところです。

学校教育の中核である授業においては、生徒が主体的に学ぶ授業の質の向上を目指し、全校体制で学校研究に取り組んできました。令和4年度から3か年計画で取り組んだ研究では、各教科等の年間指導計画を整理し、生徒の主体性を引き出す見方・考え方を働かせる「発問」「学習内容」の授業改善に取り組みました。そして、令和6年度の研究では、合わせた指導である生活単元学習の授業を研究対象として、各教科等との関連を整理し、生徒の見方・考え方を働かせる「発問」と「学習内容」に関する授業改善に取り組みました。

そして、今年度は、この研究成果をさらに継続することが大切であると考え、「総合的な探究の時間」の授業に焦点を当て、生徒が自ら課題を見つけ解決していくという、現代に必要な生きる力をより良く学ぶための授業改善の研究に取り組みました。

このように、生徒の見方・考え方を働かせる授業の質の向上を目指す本校の研究は、教職員一人ひとりが主体的に授業のあり方を問い、校内外の授業改善に関する情報を共有・整理し、さらなる授業改善に取り組む過程であり、私達教職員の「探究的な学び」であるといえます。

この度、本校の研究実践をまとめた、学校研究実践集「いしずえ（第38号）」が完成しました。ご高覧いただき、皆様の実践の参考になりましたら幸いに存じます。

結びに、令和7年12月12日に開催した公開研修会では、「総合的な探究の時間の授業づくり」と題して山形大学学術研究院 教授 野口 徹 様 より、創造的でダイナミックな「総合的な探究の時間」の授業実践をご紹介いただくとともに、教育原理の考え方をおさえたご講演をいただき、教職員一同学びを深めることができましたことに厚く御礼申し上げます。

また、本研修会での学びを共有いただきました参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

目次

はじめに		
1 学校研究の概要	1
2 各学年の実践		
(1) 1 学年	8
①校内授業研究会授業案		
②授業研究のまとめ		
③1年間のまとめ		
④研究だより		
⑤単元配列表		
(2) 2 学年	19
①校内授業研究会授業案		
②授業研究のまとめ		
③1年間のまとめ		
④研究だより		
⑤単元配列表		
(3) 3 学年	30
①校内授業研究会授業案		
②授業研究のまとめ		
③1年間のまとめ		
④研究だより		
⑤単元配列表		
3 寄宿舍の実践	43
①寄宿舍研究の概要		
②寄宿舍研究のまとめ		
③研究だより		
4 今年度の研究のまとめ	53
5 公開研修会のご講演	55
研究同人		

<表紙作品>

題名「柿の収穫をする私」 3年 今井 未来
(全国特別支援学校文化祭 出品作品)